

第2回 浜田市保健医療福祉協議会 障がい者福祉専門部会 会議録

○開催日時：令和4年12月15日(木) 14:00～15:00

○開催場所：浜田まちづくりセンター1階 研修室

○出席委員：榎本委員、山本委員、地主委員、川上委員、佐々木委員、大前委員、
田邨委員、沖田委員（委員名簿順）

○欠席委員：西田委員、小田委員、上野委員、花谷委員、小松委員、濱村委員、
宮家委員（委員名簿順）

○会議次第

1 あいさつ

浜田市地域福祉課長

2 議題

浜田市障がい者計画（素案）について

3 その他

今後のスケジュールについて

1 あいさつ

浜田市地域福祉課長

2 議題

浜田市障がい者計画（素案）について

事務局から、計画（素案）の修正箇所及び正誤表について説明。

（事務局） 欠席委員から、14頁の基本的視点や15頁の体系図を見やすくしてはどうかという意見があったので修正する。また、6頁以降の障がいのある人等の状況について、文章中の数値を強調してはどうかという意見もあったが、特定の数字を強調すると全体像が見えにくくなってしまうため、現状のままにさせてもらう。

（地主副部会長） 会議以降の修正点はいつまでに伝えればよいか。

（事務局） 1月5日から開始されるパブリックコメントの前に、12月26日の保健医療福祉協議会に諮るため、12月23日までをお願いしたい。

（地主副部会長） 前回意見したSDGsについて、修正してもらいわかりやすくなった。

（田邨委員） 18頁④の「あいサポート」運動について、浜田市は人口からするとあいサポーターの養成者数は多いが、全県的には「あいサポート」運動の推進が不十分と言われている。あいサポートメッセージについても、実践が少なく、フォローアップ講座を行っている。先般、広島県と島根県の生徒が通う高校を訪問した際、島根県の生徒はヘルプマークについて知らない人が多かったようだ。そういった現状も踏まえて、もう少し「あいサポート」運動について強調してもらいたい。

（事務局） 前回の策定時にも「あいサポート」運動について指摘があり、文言等の修正を行った。強調することについては、他の項目とのバランスを考えて検討する。

（地主副部会長） 島根県全体の取得率はわかれば、浜田市の養成者数が多いことをアピールできるのではないか。

（田邨委員） 県の社会福祉協議会に確認しないとわからない。「あいサポート」運動のことを伝えてくれる方が増えると良いと思っている。

- (事務局) 本計画が理念計画ということもあり、数値目標として取り上げることは難しいが、表現を検討する。
- (山本委員) 地域福祉計画など他の計画との整合性は問題ないのか。
- (事務局) 今年度、福祉分野では5つの計画策定を行っているが、全て浜田市総合振興計画に基づいて策定しているため、整合性は取れている。また、浜田市保健医療福祉協議会に諮り、委員の皆様は全ての計画に目を通してもらう点、全ての計画策定支援を一括して1つの事業所で行うことでも、より整合性を図っている。
- (山本委員) 講演会や行事を実施すると記載してあるが、新型コロナウイルスの感染状況を踏まえて、本当に実施できるのか。
- (事務局) この計画の期間は来年度からになるが、現在新型コロナウイルスの分類が2類から5類への引き下げが検討されている。浜田市障がい者差別解消推進委員会でも、交流の機会が必要という意見があった。近年は、活動に参加される方が基礎疾患のある方や事業所の方が多いため、イベントを中止していたが、今後は新しい方法を模索しながら実施することを見据えて、計画に掲載している。
- (山本委員) 新しい生活様式といった言葉は使用しないのか。
- (事務局) 今後、新しい生活様式がどのようなになるかわからないこともあり、計画にはあえて記載していない。
- (山本委員) 18頁に自閉症スペクトラム等の発達障がいと記載してあるが、DSM-5では自閉症スペクトラム障害又は自閉スペクトラム症となっているため、修正した方が良い。
- (事務局) 確認して修正する。
- (山本委員) 一般の方への周知ということが数多く記載されている。一般の方に理解を求めていくための、周知の仕方や発信方法についても触れてはどうか。
- (事務局) 23頁の福祉教育の中で触れているつもりだが、不足があれば検討する。
- (地主副部長) 41頁以降の情報・コミュニケーションのところ、インターネットの活用など発信方法について記載してある。他に必要な箇所があれば、追記することでバランスは良くなると思う。障がいのある方がターゲットなのか、一般の方がターゲットなのか、理念計画だからこそ統一すること

が必要だと思う。

(大前委員) 障がいの早期発見や相談対応など、一人ひとりに合わせて行う必要があることは、市民に広まりつつあると感じる。浜田高校でインクルーシブ教育の取組が行われており、特別支援学校以外でもそういった動きがあることを、盛り込めるとより良いと思う。

(地主副部長) 特別支援学校の生徒が卒業する際、以前は生活介護や就労継続支援を選択する方が多かったが、最近是一般就労に進む方が多くなっていると感じる。

(大前委員) 短時間でも良いので、一般就労にチャレンジしたいという生徒が増えている。また、法定雇用率が上がったことから、事業所から人材の問い合わせが入ることも増えた。本人がサービスは必要ないと感じていても、実際に挑戦してみてもサービスや支援の必要性に気づき、利用につながることもある。

(佐々木委員) 先程指摘のあった 23 頁の福祉教育の件について、施策の方向だけ見ると主語がなくわかりにくい部分もあると思うが、現状と課題のところと抱き合わせで読むとつながりやすくなると思う。就労の関係では、確かに特別支援学校から一般就労を目指す方が増えているが、1 年程度で辞める方もいる。高校を卒業してすぐに社会に出て就労することへの壁は高く、支援機関として支えていけないといけないと思っている。自立支援協議会の就労支援部会で課題を挙げてもらった中で、企業の理解が足りていないという意見があった。障がいへの理解を深める上で、「あいサポート」運動の講習を受けることなどが最初の入り口になるため、そういった取組を進めることが就労にもつながっていくと思う。

(川上委員) 社会福祉協議会と関係施設で、発表や販売を行うイベントを催している地域があるようだが、市民の障がいに対する理解を深めるきっかけとして、浜田市でも企画してはどうか。近年取り上げられることの多いハラスメントという言葉は、計画で触れなくてもよいか。

(地主副部長) イベントについては、近年中止となっているが、健康福祉フェスティバルが該当すると思う。ハラスメントについ

ては、就労の側面が強いと感じる。

(山本委員)

19 頁の権利擁護について、成年後見制度と日常生活自立支援事業に焦点が当たっているが、人権など金銭管理以外の要素にも触れる必要があるのではないか。

(事務局)

成年後見制度がまだ浸透しておらず、浜田市として進めたい施策として掲載している。権利擁護の取組がこの 2 つしかないように捉えられてしまうため、表現を検討する。人権については、16 頁の啓発・広報のところで、差別解消も含めて謳っているつもりである。

3 その他

今後のスケジュールについて

(事務局)

第 1 回の会議では、1 月 18 日の自立支援協議会で計画について意見を伺うと伝えていたが、パブリックコメントのスケジュールを踏まえて、12 月 14 日に行われた自立支援協議会にて今回の素案を提示して、意見を募るように変更している。